

平成 29 年度事業報告

はじめに

平成 29 年度は、4 月初旬に横浜医療福祉センター港南（以下「センター港南」）の 1 E 棟において複数回にわたる腸瘻チューブに不適正な事象が発覚し、この事象の原因究明、再発防止策に全力で取り組むとともに、横浜市による特別指導監査、長期入所予定者の入所延期等の対応に力を注ぐなど、非常に厳しい幕開けとなった。

この間、4 月 1 日にたちいずみのが開所、横浜療育医療センター（以下「横療」）は改修工事が完了し、5 月 1 日に利用者及び職員が帰還した。

経営面では、センター港南における長期入所予定者の入所遅延や業務の本格的稼働の遅れから大幅な支出超過となって経営不振に陥るとともに、横療にあっても経営状態が完全に復元されず、法人全体の資金繰りが難しい状況となった。夏期及び冬期賞与については、金融機関からの短期借入れによって財源を確保した。

この経営危機に直面して、短期入所者の積極的な受け入れ、委託業務の見直し、電力の節減、超過勤務の削減、事務費の縮小など、経営改善に向けて職員全員が一丸となって増収策や経費節減策に取組んだ。下半期はさらに経営改善を図ったことにより、若干ながら収支バランスは改善した。

当法人は昭和 62 年（1987 年）に設立されており、平成 29 年（2017 年）に創立 30 周年を迎えた。この法人創立 30 周年の記念事業として、12 月には実践報告会を開催し、外部から講師を招き講演いただいたほか、各施設による実践報告を行った。平成 30 年 3 月には記念式典を開催して、各施設でボランティアとして活躍されている方々への感謝状の贈呈、永年勤続職員表彰を行った。また、30 周年の記念誌を制作し関係機関等に配布した。

I 法人本部業務

1 法人経営の健全化

(1) 社会福祉法人改革の動向に適合した内部統制の構築

平成 29 年 4 月の改正社会福祉法施行にともない、新評議員会を発足、法人運営に係る重要事項の議決機関として位置付けた。6 月には初の定時評議員会を開催し、新たな理事及び監事が選任され、新理事構成による業務執行体制が開始された。また、会計監査人設置法人となり、会計監査人による計算関係書類等の監査が実施された。

経営組織のガバナンスの強化のため「内部管理体制の基本方針」を策定、その基本方針に基づき、理事長を委員長としたコンプライアンス委員会を設置するとともに、各施設の施設長をコンプライアンス責任者とし、コンプライアンス推進のための体制を整備した。また、内部通報制度を創設した。

(2) 会計経理事務の統一化

統一的な会計経理事務の施行、法人全体の経営状況の確認など、社会福祉法の改正に伴う経営

改善に向けて本部経理担当が中心となって、施設の経理担当者による経理担当者会議を月 1 回開催した。また、会計監査人による研修会を実施し、会計経理事務のスキルアップを図った。

(3) 事務処理の適正化・効率化の向上

事務の適正かつ効率的な執行のため、処務規程（平成元年制定、平成 21 年一部改正）を廃止し、あらたに事務決裁規程、文書管理規程を制定した。規程に則った実務が遂行できるように全施設の管理課職員を対象に勉強会を実施した。

(4) 法人全体に関わる委員会等の整備

一括した法人運営ができるように法人全体に関わる委員会等を整備した。その一つとして「業者選定委員会設置要綱」と「機種選定委員会設置要綱」を制定し、施設ごとに開催、決定されていた業者及び機種の選定について、選定基準を統一し、各施設の代表者からなる委員会により選定できるようにした。

2 公益的な事業への取り組み

地域における公益的な取組のひとつとして、不登校やひきこもり状態にある若者たちの社会参加、社会的自立を支援することを目的に「若者の社会参加及び社会的自立を支援する法人又は団体からのインターンシップ受入れ要綱」を制定、地域の支援団体と協定し、そうした若者たちの働く体験の機会となるようインターンシップの受入れを実施した。

<受入れ実績>

	受入所属	実習内容	期間（頻度）
女性(20代)	本部事務局	経理事務	2か月間（週3回）
男性(20代)	センター港南管理課	洗濯物の仕分け・収納作業	2週間（週3回）
男性(30代)	センター港南日中活動室	活動支援	2週間（週5回）

※職場体験後、2名を非常勤職員として雇用している。

3 人材の確保・定着及び人材育成の推進

(1) 職員の採用活動

平成 29 年度は横浜医療福祉センター港南の第 2 期開棟を始めとした各施設の体制を整えるため、4 月に 74 名、5 月から 3 月までの間に 51 名、計 125 名の新規採用を行った。内訳は、看護師 45 名、生活支援員 42 名、医師 5 名、医療職 14 名、などとなっている。

以上により、各施設とも若干の欠員はあるものの、年間を通じ概ね順調に運営することができた。

また、平成 30 年度の横浜医療福祉センター港南第 3 期開棟に向けた職員の採用活動も並行して行うとともに、医師・看護師採用のためのプロジェクトを進めた。

その結果、平成 30 年 4 月には、看護師 22 名、医師 2 名、生活支援員 21 名など、合計 62 名の新採用職員が入職した。

< 職員の採用・退職の状況（年度別） >

	平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度 (5月まで)			
	採用	退職	増減	年度末 在職数	採用	退職	増減	年度末 在職数	採用	退職	増減	年度末 在職数	採用	退職	増減	5月末 在職数
常勤	53	30	23	373	162	58	104	477	125	60	65	542	66	6	60	602
非常勤	38	26	12	90	58	33	25	115	72	45	27	142	19	1	18	160
総計	91	56	35	463	220	91	129	592	197	105	92	684	85	7	78	762

< 職種別職員数（非常勤含む） >

平成30年度5月末現在

職種	人数	職種	人数	職種	人数
看護師	172	管理栄養士	6	運転員	13
生活支援員	233	歯科衛生士	3	看護助手	18
医師	52	保育士	36	事務当直	14
薬剤師	8	児童指導員	16	清掃員	5
診療放射線技師	4	ヘルパー	14	音楽療法士	2
臨床検査技師	4	福祉相談員	24		
理学療法士	21	事務員	55		
作業療法士	16	洗濯員	9		
言語聴覚士	16	事務クラーク	6		
臨床心理士	12	調理員	3	合計	762

(2) 研修と人材育成の推進

4月の新採用職員研修は、初日の本部主催研修の他、研修専門業者に委託し、組織人として、また、支援のプロとして働く意識・取組姿勢を身につけるための基礎研修を4日間実施した。さらに、11月に半年間の職場での実践を振り返るフォローアップ研修を行った。



< 新採用職員研修の様子 >

9月、管理職のマネジメント力向上を目的として、研修専門業者による管理職全員を対象とした研修を実施した。

また、2年目の運用となった人事考課制度により、年間を通じて上司が部下職員の成長に向け指導・支援を継続することで職場における職員の人材育成を進めた。

(3) 規則及び規程等の見直し

育児・介護休業法改正によるハラスメント防止措置義務、改正労働契約法による無期転換制度への対応、また、監査当局の指導その他により、就業規則、嘱託・非常勤職員就業規則、育児・介護休業等に関する規則、給与規程等について必要な改正を行うとともに、人事マニュアルについても見直しを行った。

II 横浜医療福祉センター港南運営事業

5月1日に横浜療育医療センターの入所者79名が移転し、稼働する居住棟は5棟から3棟になり、5月から9月にかけて32名の長期入所者を受け入れた。

3月から5月にかけて、1E棟において複数回にわたる腸瘻チューブに不適正な事象が発生したことについて横浜市へ報告、市が特別指導監査を実施するとともに、当法人として第三者委員会を設置し、事象の原因究明、再発防止策の検証を踏まえて、今後の取組み提言をいただいた。事象の発生に伴い、新規の長期入所については、安全確保のため一部入所を延期したが、入所者への安全で質の高い医療・福祉の提供を実施し、新規32名を無事に受け入れることが出来た。その後、12月に同様の事象が数回発生し、防犯カメラの映像を確認したが人為的な行為は確認できなかった。また、複数の施設（医療機関）に照会したところ、同様の不適正な事象が数件あったことが判明した。

4月に入所者1名が末期がんのため逝去された。

外来診療は年度当初に想定していた患者よりも多くセンター港南を利用することとなったが、利用者数の増加は10%程度に留まった。

1 数値目標と結果

事業名	目標値	実績	達成率
外来診療	年度初 70名/日 年度末 125名/日 平均 96.3名/日	89.4名/日 (87.8名/日)	92.8% (91.2%)
長期入所	88名/日	83.5名/日 (73.8名/日)	97.9% (83.9%)
短期入所	4名/日	7.5名/日 (6.4名/日)	187.5% (160.0%)
入院	4名/日	1.0名/日 (0.9名/日)	25.0% (22.5%)
合計	96名/日	92.4名/日 (81.4名/日)	96.3% (84.8%)

※（ ）は横療移転5月1日のため、平成29年5月1日から平成30年3月31日の3棟での運営を集計

2 資金収支の状況

8月からの短期入所の積極的な受け入れや事業費・事務費の経費節減などに取り組んだが、入所予定者の入所延期のために満床時期が2ヶ月遅れたことや、外来診療件数が見込みよりも伸び悩んだことなどから、収支差額は1億円余のマイナスとなった。

<平成29年度収支全体>

単位：円

収入	支出	資金収支差額
1,910,282,814	2,020,900,575	-110,617,761

3 各事業の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
長期合計 141床 ↓ 88床	定数	4,230	2,728	2,640	2,728	2,728	2,640	2,728	2,640	2,728	2,728	2,464	2,728
	実績数	4,002	1,757	1,917	2,193	2,328	2,510	2,677	2,613	2,673	2,658	2,449	2,710
	1日の平均	133.4	56.7	63.9	70.7	75.1	83.7	86.4	87.1	86.2	85.7	87.5	87.4
	占床率	94.60%	64.40%	72.60%	80.40%	85.30%	95.10%	98.10%	99.00%	98.00%	97.40%	99.40%	99.30%
短期合計 15床 ↓ 6床	定数	450	124	120	186	186	180	186	180	186	186	168	186
	実績数	470	143	120	201	313	221	210	228	193	227	196	233
	1日の平均	15.7	4.6	4	6.5	10.1	7.4	6.8	7.6	6.2	7.3	7	7.5
	占床率	104.40%	115.30%	100.00%	108.10%	168.30%	122.80%	112.90%	126.70%	103.80%	122.00%	116.70%	125.30%
入院合計 4床 ↓ 2床	定数	120	124	120	62	62	60	62	60	62	62	56	62
	実績数	52	15	31	44	20	32	43	46	52	14	8	18
	1日の平均	1.7	0.5	1	1.4	0.6	1.06	1.4	1.5	1.7	0.5	0.3	0.6
	占床率	43.30%	12.10%	25.80%	71.00%	32.30%	53.30%	69.40%	76.70%	83.90%	22.60%	14.30%	29.00%
日中一時(実績)		10	5	6	1	4	2	2	3	4	2	1	3
合計 160床 ↓ 96床	定数	4,800	2,976	2,880	2,976	2,976	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,688	2,976
	実績数	4,534	1,920	2,074	2,439	2,665	2,815	2,950	2,890	2,922	2,901	2,654	2,964
	1日の平均	151.1	61.9	69.1	78.7	86	93.8	95.2	96.3	94.3	93.6	94.8	95.6
	占床率	94.50%	64.50%	72.00%	82.00%	89.50%	97.70%	99.10%	100.30%	98.20%	97.50%	98.70%	99.60%

(1) 長期入所利用状況

5月から新長期入所者を受入れ8月までに完了する予定だったが、1E棟に係る不適切な事象により1ヶ月延期となった。5月に7名、6月に7名、7月に6名、8月に7名、9月に5名の方が長期入所された。

開所2年目にあたり、今年度は利用者が参加する「活動」に力を入れてきた。ユニットごとにメニューを充実させ、創作や調理などを実施した。また、個別支援計画をもとにして積極的に外出活動に取り組み、ディズニーランドや劇団四季チャリティ公演などへ出かけた。その他、近隣への散歩や買い物、ペットボトルキャップやマグネットシートの回収なども行った。

(2) 短期入所利用状況

横療の改修工事後、事業を再開するまでセンター港南で一時的に長期入所者・短期入所者を受け入れていた。5月の横療への入所者の移転により短期入所者数は減少したが、7月から定数を4床から6床、入院を4床から2床に見直し、入院の空床を利用することで積極的に在宅利用者の支援を実施した。これに伴いベッドの稼働率が向上した。短期入所は年間で2,755名、一日平均7.5名の利用があった。入院は年間で375名、一日平均約1名を受入れた。

(3) 外来診療

外来診療実績（全体）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21
患者総数	2,141	1,764	1,774	1,709	1,917	1,626	1,772	1,775	1,899	1,608	1,814	2,008
1日平均	107.1	88.2	80.6	85.5	87.1	81.3	84.4	88.8	95.0	84.6	95.5	95.6
初診	37	32	31	25	34	17	22	20	19	23	19	27

診療科別実績

診療科	開設頻度	年間診療件数	一日平均件数
小児・内科	5回/週	6,163件	25.3件
リハ科（訓練）	5回/週	12,156件	49.8件
耳鼻科	3.5回/週	570件	3.2件
整形外科	0.5×4回/月	384件	16.0件
皮膚科	0.5回/週	96件	3.7件
精神科	0.5回×2/月	110件	9.2件
歯科	4回/週	2,328件	11.8件

外来診療の年間総数は21,807名、一日平均89.4名であった。5月に横療が移転したのち、外来診療は2割ほど減少したが、新規患者は306件/年であり、後半は平均95件/月を超えた数値まで回復した。初診外来は重症心身障害児者に限らず、発達障害、脳性麻痺のボトックス治療、てんかんなどのニーズに対応した。また、多職種（医師、療法士、看護師）カンファレンスにより、問題の共有と解決を図った。

(4) 検査課

①院内検査

	外来	入院・入所	合計（件）
CRP	107	826	933
血算	356	833	1,189
電解質	296	565	861
血中薬物濃度	185	246	431
血液ガス分析	58	390	448
尿定性	161	258	419
尿沈渣	136	233	369
迅速検査	125	373	498
感染症検査	59	71	130
心電図	32	57	89
脳波	139	37	176
聴力検査	5	0	5

②外注検査

	外来	入院・入所	合計（件）
生化学・免疫他	6,882	9,735	16,617
細菌培養	44	460	504
病理・細胞診	0	0	0

検体検査および生理機能検査の内部・外部精度管理を実施し、検査精度の向上に努めた。また、生理機能検査では検査課における聴力検査を開始し、耳鼻科の緊急時検査を開始した。

(5) 放射線課

	外来	入院	合計
C T	135	250	385
一般撮影	594	167	761
ポータブル撮影	54	551	605
透視検査	29	169	198
超音波検査	209	50	259
画像ファイル	131	54	185
歯科デンタル	183	30	213

5月横療再開による、長期利用者の若年化により検査全体の減少が懸念されたが、全体的に外来の需要が伸びており、歯科においては前年度より2倍の件数となっている。透視検査においては、胃瘻等の交換がファイバに変更されたため減少が目立った。

(6) 栄養課

①入所食数実績

	合計（前年度比）
経口食	52,156（1.2倍）
胃瘻食朝	5,569（-）
胃瘻食昼	9,465（1.2倍）
胃瘻食夕	6,388（3.9倍）
経管栄養食	107,785（0.8倍）
日中一時支援	44（1.8倍）
嚥下外来食	4（0.6倍）

経口食は、新長期入所の経口食摂取状況が多かったことから増加がみられた。胃瘻食は、経腸栄養剤から胃瘻食への切り替えを推奨したことにより、いずれも食数増加がみられている。（朝食は前年度1月から実施）経管栄養食については横療入所者の移動と長期入所の経管栄養食が少なかったため、減少している。

②栄養指導

指導内容	加算	非加算	合計
肥満	6	4	10
低栄養	3	0	3
エネルギーコントロール食	0	3	3
摂食嚥下障害	2	0	2
合計	11	7	18

(7) 薬剤課

①調剤院内処方

	診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
外来	小児科	15	24	24
	神経小児科	33	58	66
	耳鼻咽喉科	14	28	28
	内科	1	1	1
	神経内科	19	34	39
	小計	117	213	240
入院	1E棟	3,102	10,751	15,816
	2E棟	3,042	9,318	12,774
	2W棟	3,001	10,702	15,212
	3E棟	249	1,092	1,603
	3W棟	249	1,033	1,383
	小計	9,643	32,896	46,788

②注射院内処方

	診療科/病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
入院	1E棟	847	2,012	2,926
	2E棟	473	1,084	1,498
	2W棟	525	1,341	1,948
	3E棟	40	82	113
	3W棟	51	196	311
	小計	1,936	4,715	6,796

(8) 医療福祉相談室

①短期入所調整業務 (件)

2～3月の短期入所調整業務	
申込件数	55(内新規申し込み5)
利用件数	63(内新規利用1)
断り件数	2

4月から1月までは横療と協働し調整した。実際の利用に至るには、「事前外来」受診を経て、医ケアや栄養対応状況および養育者の意向等を含む安全と安心の確認を行う。利用人数の平均は31.5人/年であった(年平均5.5床)。2月からセンター港南で調整業務を開始した。

②計画相談実績 (件)

	11月	12月	1月	2月	3月
申込件数	5	5	0	0	0
立案	0	0	5	4	1

新規長期入所の中で契約事業所を持たない10名に対して1月より実施した。モニタリングは未実施となった。

③相談業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	52	61	72	89	114	116	119	138	138	135	130	144
関係機関調整	46	57	79	94	134	135	161	144	164	146	139	162

在宅生活者、長期・短期入所者、外来受診者等から、電話・来所にて相談を受けた。相談の内容は多岐にわたり、各種「手帳」関係、税金対策、医療機関関係、福祉資源関係等々があった。

(9) 日中活動

実施回数	参加延べ人数	一日平均人数
835回	4725名(内短342名)	19名

長期・短期入所者を対象に、日中活動室において専属の職員と一緒に活動を実施している。利用者側からは楽しみや生きがいになるように、職員側からは情報収集の場になるように一人ひとり目的を持った活動へ長期短期共にグループ毎に行っている。日々3コマ(1コマ4～6名程度)を受け入れ、長期利用者は月5～6回の参加を実施することが出来た。



ボーリング場



音楽会

(10) ボランティアの受入れ

	実数	延べ数	一日平均	新規登録者
個人	638名	331回	1.7名	24名
団体	80団体	380名	1.0名	-

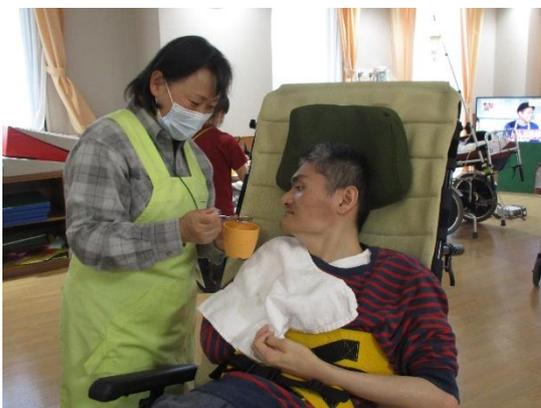
棟内では寄添い、入浴後のドライヤーかけ、食事介助、読み聞かせなど、また、日中活動における演奏活動やセンター内の裁縫・園芸（剪定）など数多くの方々にボランティアとして参加していただいた。とちのき祭（10月開催）の時には19名の方々に参加いただき利用者との交流を図った。また、3月にはセンターで初めてボランティア交流会（11名参加）を開催して、意見交換を行った。



読み聞かせ



話し相手、入浴後ドライヤーかけ



食事介助



演奏（日中活動より）

(11) 地域交流

・実施件数

16 回/年（音楽会を中心に地域団体やボランティア活動の方により実施）

・会場提供

港南区高齢障害支援課、港南区障害者団体連合会、港南台支えあいネットワーク連絡会など交流支援を実施した。



バイオリンとピアノコンサート



シャンソンコンサート

(12) 安全管理室

事故報告件数（5 件）

	事故の種類	事故の内容	今後の取り組み
4 月	死亡	乳がんによる慢性呼吸不全	利用者、家族に寄り添う看取りにつなげる
5 月 同一 人物	腸瘻チューブの固定水がほとんど抜けていた	固定水入れ替え後、漏れの確認を 1 日 6 回実施。2 日後固定水がほとんど入っていない状態でチューブが抜去された	特別指導監査の実施となり指導をうけ対策を講じた
	腸瘻チューブに本来入らない空気が入っていた	腸瘻チューブの遊びがなく、腹部が腫瘤様に膨らんでいたため固定水確認。本来固定水は 2.5 ml だが、空気 36 ml と固定水 5 ml 計 41 ml 入っていた	
10 月	左大腿骨遠位端骨折	朝スタッフが左大腿から下腿までの腫脹、熱感を発見しレントゲンの結果、左大腿骨遠位端骨折の骨折と判明（原因不明）	患部安静で対応。歩行不能な利用者は骨の廃用性萎縮があり骨折のリスクが高いことを委員会から報告する。体位交換や移動方法の実践研修を行う（11 月骨折勉強会実施）

11月	右拇趾骨折疑い・右拇趾爪剥離（骨折ではなかったため報告のみ）	入浴時に靴下を脱がせ際右足の拇趾の爪が根元のみつながって剥離状態。右足先の腫脹・発赤あり骨折の疑いとなる	巻き爪のため爪を長くしてあった。個人の爪の特性を理解し無理に靴下を脱がせない、引っかかった場合は無理に取らないなど委員会報告をする
-----	--------------------------------	--	---

III 横浜療育医療センター運営事業

平成 28 年 7 月から平成 29 年 3 月末まで大規模改修工事を行い、翌 4 月の再開準備期間を経て、5 月 1 日に再開した。再開初日はセンター港南に転院していた入所利用者 79 名を受入れ、2 日より外来診療、連休明けの 7 日より短期入所の受け入れを再開した。その後、外来診療・リハビリテーション、および短期入所等は 8 月までにはほぼ定常状態となり、長期入所は新入所者 7 名の受け入れが 7 月末までに完了し 87 床での運用が開始した。慢性的な人員不足やセンター港南への利用者の移動等の影響で、外来患者数や通所利用者、短期入所者数は休院前よりやや減少した。しかし各部署の職員はスタッフが少ない中でもその質を落とすことなく真摯に業務にあたり、事業収益の減少も最小限に抑えることができた。

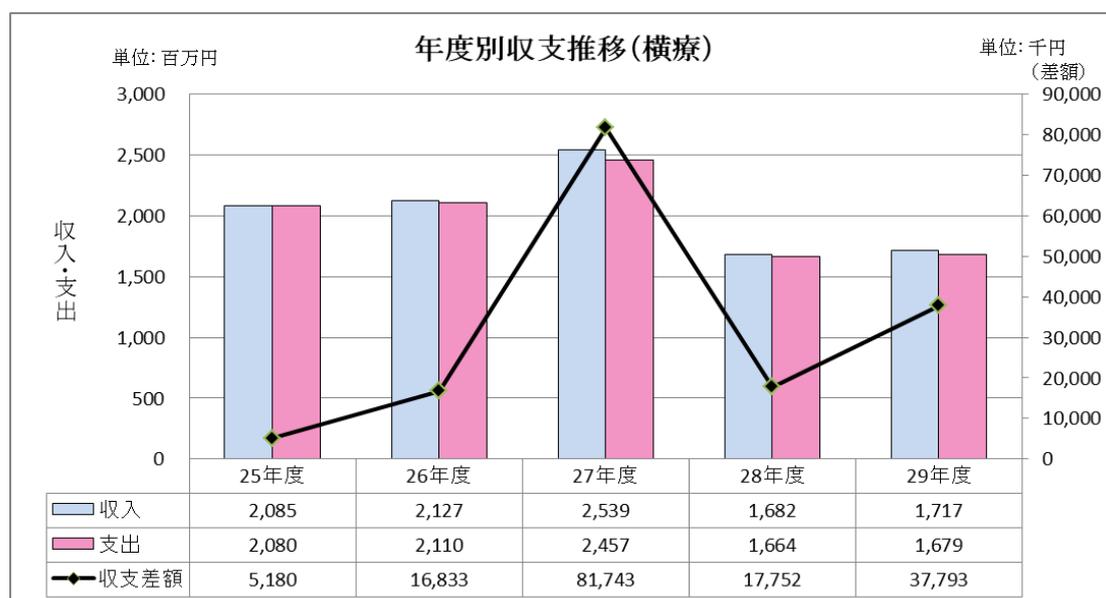
1 数値目標と結果

事業名	目標 (6 月)	実績 (6 月)	目標 (30 年 3 月)	実績 (30 年 3 月)	達成率 (30 年 3 月)
外来診療	60 名/日	66 名/日	100 名/日	76.8 名/日	76.8%
療養介護	83 名/日	80.3 名/日	87 名/日	83 名/日	95.4%
短期入所	10 名/日	13.5 名/日	15 名/日	17 名/日	113.3%
入院	2 名/日	1.2 名/日	3 名/日	2.8 名/日	93.3%
生活介護	-	-	18 名/日	17.7 名/日	98.3%
訪問看護	20 名※1	19 名	30 名※2	26 名	86.7%
ヘルパーステーションまいは一と	-	-	600 件/月	605 件/月	100.8%
病児保育あさひ	-	-	880 人※3	734 人	83.4%

※1 29 年度 6 月末時点の契約者数 ※2 29 年度末時点の契約数 ※3 年間延べ人数

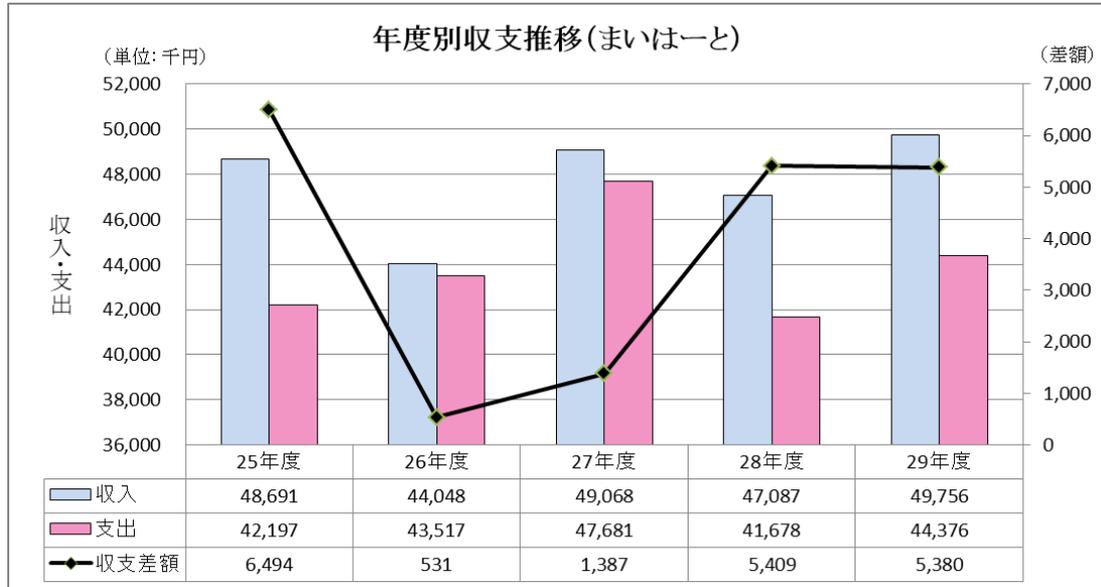
2 資金収支差額の推移

(1) 横浜療育医療センター



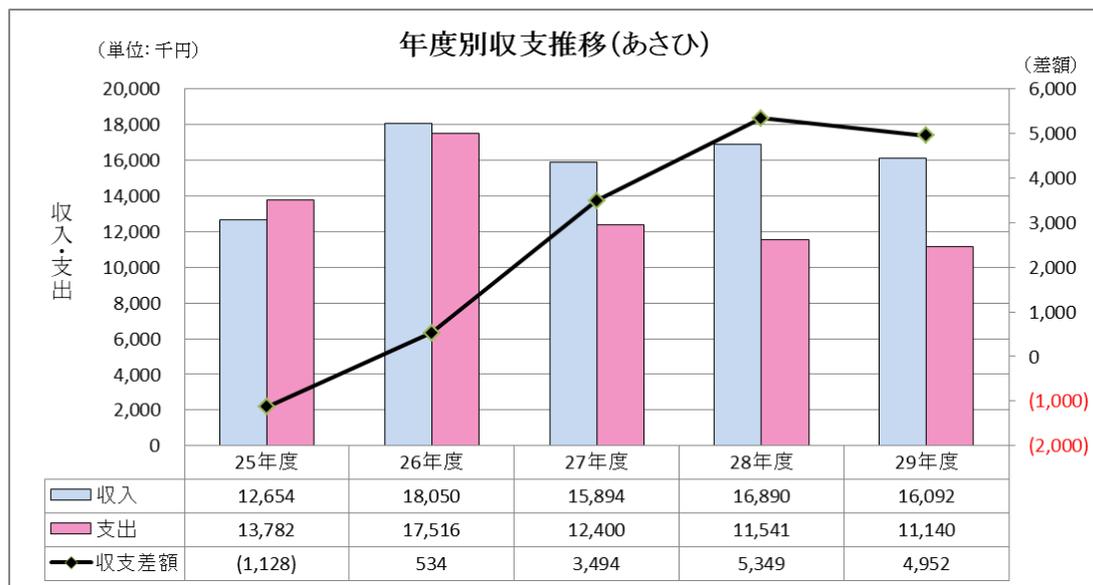
29年度は大規模改修工事を終え、経営の早期安定化を図るため、健全な収支差額が出せる体制作りに取り組んできたが、今回のリニューアルに伴い、機械浴槽等の大型物品や初度備品の調達もあり収支状況は厳しいものであった。結果は約3,780万円のプラス収支となった。

(2) ヘルパーステーションまいはと



28年度の処遇改善加算の加算率が良くなったことから、安定した収支状況となっている。

(3) 病児保育室あさひ



28年度の利用者数の10%アップを目標に運営を行ったが、目標には届かなかった。収支は500万円程のプラスで安定している。

3 各事業の推移と部門実績

(1) 長期・短期入所利用状況

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長期 合計 (87床)	定数	2,697	2,610	2,697	2,666	2,580	2,666	2,580	2,666	2,666	2,417	2,697	28,942
	実績数	2,413	2,408	2,563	2,649	2,558	2,659	2,550	2,613	2,604	2,344	2,573	27,934
	1日の平均	77.8	80.3	82.7	85.5	85.3	85.8	85.0	84.3	84.0	83.7	83.0	83.4
	占床率	89.5%	92.3%	95.0%	99.4%	99.1%	99.7%	98.8%	98.0%	97.7%	97.0%	95.4%	96.5%
短期 合計 (15床)	定数	465	450	465	496	480	496	480	496	496	439	465	5,228
	実績数	292	405	489	508	493	477	486	527	488	465	527	5,157
	1日の平均	9.4	13.5	15.8	16.4	16.4	15.4	16.2	17.0	15.7	16.6	17.0	15.4
	占床率	62.8%	90.0%	105.2%	102.4%	102.7%	96.2%	101.3%	106.3%	98.4%	105.9%	113.3%	98.6%
入院 合計 (3床)	定数	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1,005
	実績数	18	36	52	44	40	16	29	36	66	44	87	468
	1日の平均	0.6	1.2	1.7	1.4	1.3	0.5	1.0	1.2	2.1	1.6	2.8	1.4
	占床率	19.4%	40.0%	55.9%	47.3%	44.4%	17.2%	32.2%	38.7%	71.0%	52.4%	93.5%	46.6%
日中一時		7	10	16	18	18	12	15	19	12	9	17	165
総合計	定数合計	3,255	3,150	3,255	3,255	3,150	3,255	3,150	3,255	3,255	2,940	3,255	35,175
	実績総数	2,723	2,849	3,104	3,201	3,091	3,152	3,065	3,176	3,158	2,853	3,187	33,559
	1日の平均	87.8	95.0	100.1	103.3	103.0	101.7	102.2	102.5	101.9	101.9	102.8	100.2
	占床率	83.7%	90.4%	95.4%	98.3%	98.1%	96.8%	97.3%	97.6%	97.0%	97.0%	97.9%	95.4%

平成 29 年 5 月にセンター港南から 79 名の利用者を再受入し、移動による利用者の健康状態等に大きな問題はなかった。5 月より新たに長期入所者を、男性 3 名、女性 5 名の計 8 名の受入れを行った。その後、3 名の長期入所者が亡くなり、空き枠については短期入所枠として利用した。また、次年度新たに長期入所者を受けるとあたり、2 月に A B C 棟間で長期入所者の移動を行った。

短期入所の 29 年度の占床率は 98.6% で年間を通して職員の欠員が生じていたが、7 月以降の占床率は 100% 前後で推移し、できる限りの入所受入れを行った。

(2) 外来診療

診療科	開設頻度	年間診療件数	一日平均件数
小児内科	5 回/週	3,654	15.7
内科(生活介護)	5 回/週	4,154	17.8
耳鼻科	2 回/週	527	5.5
整形外科	2 回/月	149	6.7
リハ科※1	5 回/週	5,821	23.7
皮膚科	1 回/週	108	2.4
精神科	1 回/月	15	1.3
歯科	3 回/週	1,607	12.1

※1. リハ科は、月 2 回土曜日診療を実施

外来診療について、年度末の目標 100 名/日には届かなかったが、11 月以降は 1 日平均の外来数が 70 名を超え徐々に増加した。リハ科については、月 2 回土曜日に訓練の実施を行い、利用者へのサービス提供を行った。

(3) 検査課

検査件数実績

【院内検査】	外来	入院・入所	合計
CRP	468	1700	2168
血算	577	1700	2277
電解質	337	960	1297
血中濃度	329	328	657
血液ガス	100	517	617
血液型	0	0	0
尿定性	254	199	453
尿沈渣	226	199	425
迅速検査	273	389	662
感染症	98	33	131
心電図	119	90	209
脳波	102	20	122

【外注検査】	外来	入院・入所	合計
生化学・特殊	621	747	1368
細菌培養	110	372	482
病理・細胞診	0	病 1/細 2	病 1/細 2

脳波検査は外来利用者の分散（センター港南を受診）により件数は減ったが、緊急脳波検査が増え、利用者の急な体調不良に臨機応変、迅速に対応できた。検体検査では、オンラインで測定結果が送信され、従来の手書きのリスクがほぼなくなったため、検査課内の運用はスムーズになった。

(4) 放射線課

外来・入院実績

	外来	入院	合計
C T	135	250	385
一般撮影	791	135	926
ポータブル撮影	75	1,328	1,403
透視検査	102	264	366
超音波検査	15	82	97
画像ファイル	43	45	88
歯科デンタル	52	9	61

5月の再開時から、X線読み取り装置・超音波装置・PACS・電子カルテ導入を行い、効率の良い撮影、検査ができるようになった。

(5) 栄養課

①入所食数実績

経口食	胃瘻食昼	胃瘻食夕	経管栄養食	日中一時支援	嚥下外来食	合計
44,193	6,733	1,472	103,903	34	13	156,348

経口食と胃瘻食の前年比は9%増加、その反面、経管食数は6%減少であった。新長期入所と短期入所の喫食者増により、経口食増に繋がった。

②通所食数の実績

経口食	胃瘻食	合計
1,281	1,235	2,516

港南Ⅱ期新長期入所の関係で、7月以降270食から235食へ13%減少。10月以降も減少にあり、期末には22%減であった。又、経口食と胃瘻食の割合は経口食53%、胃瘻食47%、胃瘻食は増加し、経口食と同数近くなっている。

(6) 薬剤課

(調剤) 院内処方統計

診療科・病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
小児科	158	272	315
耳鼻咽喉科	59	80	97
内科	37	39	42
皮膚科	17	21	21
歯科	2	3	3
A棟	2,191	8,347	10,911
B棟	1,963	7,644	9,695
C棟	3,822	16,114	22,735
合計	8,249	32,520	43,819

(注射) 院内処方統計

病棟	処方箋枚数	件数	延調剤数
A棟	880	1,496	2,114
B棟	699	1,298	1,872
C棟	3,044	5,698	8,517
合計	4,623	8,492	12,503

(7) 日中活動

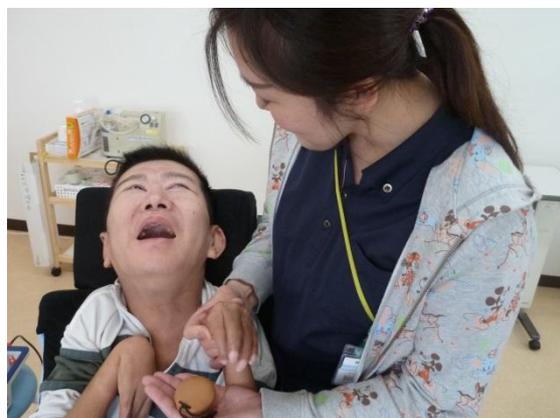
参加数

	参加数	1日平均
長期利用者	4,668名	21.2名
短期利用者	420名	1.9名
合計	5,088名	23.1名

横療の改修工事後、活動室が1部屋増え合計2部屋で活動できるようになった。長期利用者は月に5～6回の参加となり、センターの生活の中において、日中活動が定着した。



ボーリング大会 ～狙いを定めてエイッ！～



音遊び ～カスターネットの音が癖になる？～

(8) 生活介護（通所）

	開設日数	登録数	新規	通所者数	欠席数
29年度(前年比)	241(1)	43.2(-1.1)	5(0)	4,252(165)	870(20)

4月に新規利用者4名を受け入れ、6～8月の間に長期入所生活移行による退籍者が4名となった。11月に死亡による退籍者1名、12月に1名新規利用者を受け入れた。



毎年恒例のスイカ割り！

スイカも利用者の方が栽培したものです



潮風をいっぱい浴びた潮干狩り

(9) 訪問看護ステーションえーる

	合計	1日平均
新規	10名	-
終了	2名	-
契約総数	26名	-
訪問数	1,085件	4.5件
キャンセル数	245件	1.0件
訪問リハ	51件	0.2件

平成29年度は、新規10名の契約があったが、目標の30名には至らなかった。理由としては、看護師の欠員状態だったため、積極的に新規を受けられない状況があった。また、長期入所のため、2名が契約終了となった。7月に満足度調査を実施し、概ね満足度は高い結果であったが、担当者が事務所に不在であることが多いため相談の連絡が取りにくいとの意見があり、ナンバーディスプレイ機能をつけて対応した。

(10) 医療福祉相談室

①受診申込受付

項目		合計
初診数		267 件
診療科別内訳	小児科・内科	87 件
	PT	52 件
	OT	43 件
	ST	66 件
	歯科	24 件
	耳鼻科	29 件
	他	41 件

横療移転後、初診受付を相談室で行なうようになった。相談員が診察希望の内容や困りごとを聞き取ることにより、必要に応じ診察場面に立合い、家族支援や関係機関との連携をスムーズに行なうことができるようになった。

②短期入所事前外来

項目		計
新規申込み数		39 件
利用歴	初診	29 件
	再診	26 件
	受診済合計	55 件
待機	予約済	36 件
	予約未定	167 件
	合計	198 件
短期入所	申し込み件数	1,046 件
	利用件数	677 件
	断り件数	71 件

事前外来を計画的に設定（月平均3～4件）することにより、待ち時間が短くなった。30年2月より短期入所の申込みを、横療・港南それぞれの施設へ直接申し込みができるように変更した。

③相談件数

項目	合計
計画相談件数	629 件（新規 54/モエタリング 72）
2次相談件数	649 件
健康相談	4 件
巡回相談	0 件
出前講座	3 件

(11) 管理部

地域連携

ボランティア受け入れ

	合計	1日平均
個人実数	556名	2.3名
延べ回数	516回	2.1回
団体実数	143団体	0.6団体
延べ人数	143名	0.6名

新規登録のボランティア数は、個人が11人、団体が1団体であった。また、今年度より、よこはまシニアボランティアポイントの施設登録をし、ポイント端末を設置した。高齢のボランティアに喜ばれ定期的な活動に繋がった。

その他、年間行事として以下のボランティア活動が行われた。

2月；ゴスペルスクエア コンサート

3月；上菅田トリオ（歌・バイオリン・ピアノ）コンサート

(12) ヘルパーステーションまいはーと

	合計	平均/月	1日平均
訪問者数	917	76 (+2.5)	3.8
訪問件数	7,257	605 (+10)	30.2
訪問時間	8,925	744 (-15)	37.2

()内は前年度との比較

利用者の体調不良等及び悪天候による訪問キャンセル・予定変更が発生したが、訪問時間数の前年度対比は98%とほぼ前年度の訪問実績を維持できた。「稼働状況表」の通り、訪問件数は前年度比1.6%増、訪問時間数は2%減となった。

利用者サービスの維持・サービス向上を図るために、ヘルパーの確保が課題となっている。

(13) 病児保育室あさひ

	合計	1日平均
開設日数(日)	245	-
登録者数(人)	191	-
申込者数(人)	1570	6.4
キャンセル数(人)	747	3.0
延利用者数A	73	3.0
加算利用者数 (A-20人)	494	2.0

平成29年度の利用者数は734人で、一日平均利用人数は3.0人と、昨年度より0.3人減となった。平成28年度に、2部屋にかかっていた窓を各部屋に設け、部屋に隙間が空

かないように感染防止を行ったことで、今年度は各部屋の窓を開けて換気を行えるようになり、二次感染防止につながった。今後も安心して利用してもらえるよう、保護者の思いを聴き対応していきたい。

IV 地域療育センターあおば

地域療育センターあおばは、主に青葉区在住の発達に遅れのある、又は障害のある児童とその家族を対象として相談、診療、専門職による個別指導を中心に、早期からの療育、地域への訪問支援、児童発達支援事業所、区の子育て支援事業の受託、地域ニーズ対応事業、保育所等訪問支援事業や障害児相談支援事業（利用計画書作成・モニタリング）を実施している。

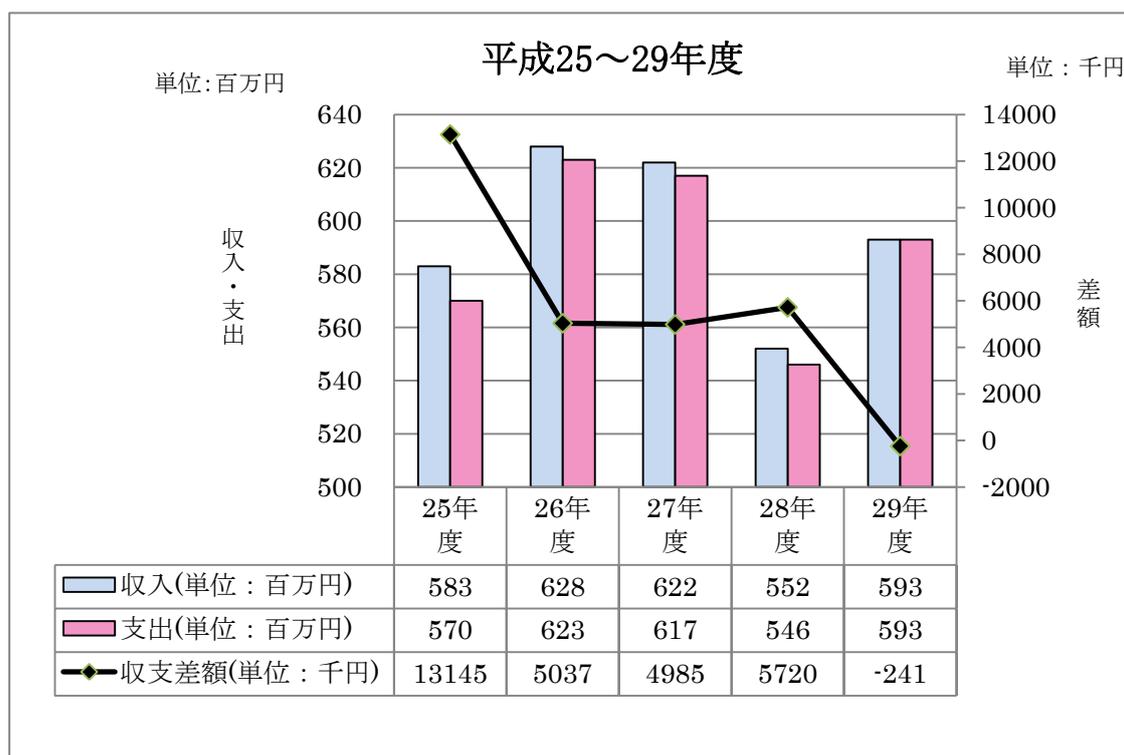
平成29年2月に地域療育センターあおば創立10周年記念式典・研修会を開催し、職員全員で今後の地域療育センターあおばのあり方について検討した結果を踏まえ、今後とも、多様化する利用者のニーズに応えることができるよう工夫しながら事業を進めていく。

収支の面では、診療課の診察数・訓練数共に前年度と大きな変化はなく、診療収入は微増し、通園課・こども支援室の出席率も順調に推移している。

1 数値目標と結果

事業名	担当課	目標値（延べ人数）	実績	達成率
外来診療	診療課	17,000人	17,044人	100.26%
福祉型児童発達支援	通園課	9,260人	9,031人	97.53%
医療型児童発達支援	同	2,820人	2,791人	98.97%
児童発達支援事務所	こども支援室	1,200人	1,192人	99.33%
障害児相談支援事業	相談課	500人	377人	75.40%
保育所等訪問支援事業	同	80人	65人	81.25%

2 資金収支差額の推移



あおばは、横浜市（こども青少年局）からの補助金と通園施設収入、診療報酬及び相談支援事業収入により運営されている。

支出については、人件費及び事業・事務費支出であるが、過去5年間の推移を見ると収支差額は縮小する傾向にある。これは、区民ニーズの増加に対応するため、横浜市からの補助対象となる人員に加えて法人負担による人員の人件費が増えていることが大きな要因である。特に29年度は、設備・備品の経年劣化に対応した修繕や購入、さらには公用車の買い替え等が大幅な支出増につながった。今後、より一層の収入増加と経費節減及び適正な定数管理を徹底する必要がある。

3 各課の実績報告

(1) 診療課

診療課は従来の診療科に加え小児神経科での外来診療も行った。

新患数は、未就学児が292人、学齢児が98人の合計390人で、昨年度を23人上回った。学齢児の受診が増え、再診の未就学児2,046人、学齢児1,864人で、新患・再診の総合計は4,300人となり、前年度を若干上回った。

なお、初診待機月数は2か月を下回り、市からの通達である『3か月未満』を維持している。

訓練等では、理学療法、作業療法、言語聴覚療法は、常勤作業療法士2名の育休に伴いスタッフ減となり作業療法訓練の件数減に繋がってはいるものの、他職種訓練が件数を伸ばし、心理指導も年間件数が増え、学齢児の心理療法件数が前年を更に上回ったため、前年度の若干総計を上回っている。

通園施設利用にいたる前の低年齢児を中心に、外来グループとして集団療育活動を0歳から2歳程度の児童を対象に、理学療法士・作業療法士が中心となり、相談課職員・臨床心理士と協力し精神発達面と保護者の心理的サポートも併せて、集団活動を通年で実施した。

	新患	再診	(小計)	PT	OT	ST	聴検	心理	総計
H29年度	390	3,910	(4,300)	2,405	2,762	2,745	371	4,461	17,044
前年度比	+23	+100	(+123)	+336	-665	+56	+31	+180	+61

(2) 通園課

年間を通して、福祉型児童発達支援を利用した児童は76人、医療型児童発達支援を利用した児童は31人であった。年間療育日数は、210日である。

医療型児童発達支援は、親子通園の2歳児からの利用があった。3・4・5歳児は単独通園と親子通園とを併用して運営した。

また、29年度は、福祉型児童発達支援で週1回午前療育のクラスを3クラス設定することにより、待機を出さないように運営を行った。

(3) 相談課

初診相談件数は、昨年度の 369 件を若干上回り 393 件であった。一昨年 の 406 件という 400 件を上回る状況も捉えると、ここ数年の初相談の低年齢児の保護者による申込みがインターネット等の情報ツールより増えたこと、そして学齢児の相談が増えたことなどから、今後も 400 件前後で推移するものと推察される。

なお、28 年度より外来グループを相談課に位置付け、より初期の対応が充分行き届くよう体制を強化した。

(4) こども支援室

1 クラス 6～7 名定員の 6 クラスで療育を開始し、安定したサービス提供を行った。また、保護者の就労用件により定期的な集団療育の利用が難しい利用児 2 名に対して個別療育サービスを実施した。

(5) 管理課

年 2 回の運営協議会において、センターの運営と青葉区内における障害児の療育の推進について協議を行った。

給食については、通園利用児等に対して食物アレルギー等に配慮し、1 日平均 90 食、合計 18,900 食を提供した。

通園バスについては、中型バス 3 台により、区内 3 ルートで運行した。

V たっちほどがや運営事業

平成 22 年 4 月に開所した当施設は 8 年目を迎え、入所者の平均年齢は開所時の 41 歳から 49 歳へ上昇、60 歳以上の方は 2 割を超え、病気で他界された方が 2 名、看取りを視野にいれたラストステージ支援を提供する高齢の入所者は 3 名増えて 4 名になった。常勤医と夜間看護師配置のない施設であるため医療ケアの質・量が上がると入所継続は困難となるが、可能な限り慣れ親しんだ場所と人に囲まれて最期を迎えたいという方（ご家族）が多く、そうしたご要望に応えられる施設が少ないため、近隣の診療所の協力を得てラストステージ支援をすすめた。

一方、自立ユニットでは一人の方の地域移行を目標に 1 年間にわたって機関連携のもと毎月数泊グループホーム生活体験に取り組んだ結果、グループホーム移行が実現、今後に生かしたい初の支援経験となった。

29 年度は、「終末期の支援」と「自立期の移行支援」、その両方に取り組んだ年になった。

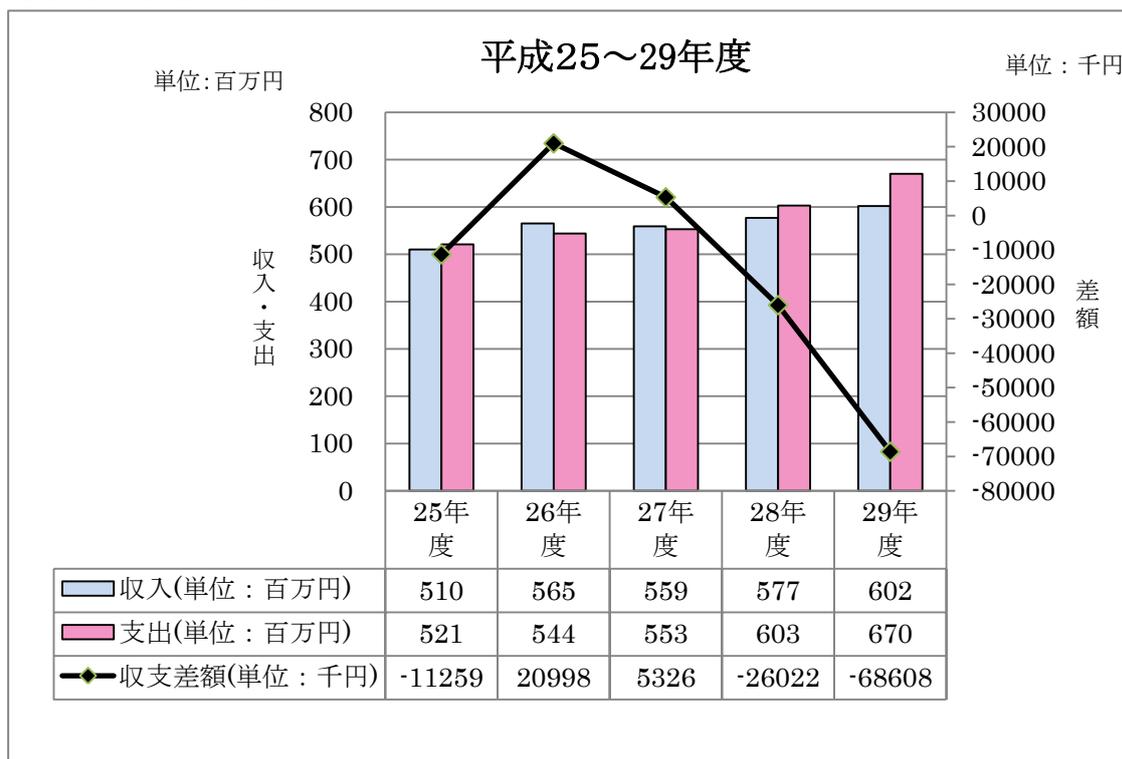
利用者サービスの前提となる人材育成について、利用者と職員の健康維持のためのノーリフト導入をはじめ、市内旧身障療護 4 施設と共同してユマニチュード研修、看取りの研修などに取り組んだ。

4 月に泉区和泉町に「たっちいずみの」をオープンした。生活介護定員 15 人、重心児の放課後等デイサービス 5 人の多機能型事業所で、重い障害のある人に対して小学生のときから成人期までかかわり続けることができる、本人・家族の身近な応援団になれる地域施設を目指している。また、生活介護通所には地域在宅の人たちに加えて、たっちほどがやの入所者 15 名が週 1 回通所しており、全国的にも珍しい重い障害のある人の職住分離が実現した。



たっちいずみの

1 資金収支差額の推移



たちほどがやの通所者がセンター港南へ入所したこと、同じく通所者が「いずみの」に移行したこと、さらに「いずみの」が60%からのスタートとなったことなどによって6800万円のマイナス収支となった。

30年度以降は報酬単価の改善、たち通所およびいずみのの利用者増が続くため収支差の縮小を見込んでいる。

2 施設入所支援事業（43人）

1年間の入所支援利用者のべ数は15,434人で利用率は98.3%であった。利用率100%は43人×365日＝15,695人であるが、その差261名のほとんどは入院による減員である。上半期は入院が多く、前年度を大きく上回ったが、年間を通じると前年度と同数であった。

利用状況 ※障害程度区分 平均：5.8

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	1,258	1,299	1,265	1,321	1,314	1,262	1,323	1,251	1,306	1,304	1,203	1,328	15,434
H29	1,251	1,302	1,237	1,279	1,303	1,286	1,317	1,275	1,327	1,324	1,200	1,333	15,434
	-7	3	-28	-42	-11	24	-6	24	21	20	-3	5	0

3 短期入所事業（7人）

新規の申込相談者数は50人（前年度62人）で減少にはセンター港南入所の影響が見られたが、毎月ベッド枠以上の応募があり、毎月お断りする不均衡は変わっていない。

1年間の短期入所支援利用者のべ数は2,194人で表のとおり上半期は高い利用率を維持していたが、前年度より24人下回った。その原因は12月、1月は予定者の体調不調が多く、また3月はユニットでインフルエンザが発生し、利用中止が激増したためであった。

利用状況（実績） ※登録者数 340 人（昨年度 290 人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	174	171	158	162	181	180	193	194	220	213	173	199	2,218
H29	190	198	192	168	193	184	193	185	201	168	170	152	2,194
	16	27	34	6	12	4	0	-9	-19	-45	-3	-47	-24

4 生活介護事業・通所部門（20人）

1年間の延べ通所者数は4,707人で、新規利用者4人を受け入れたものの、前年度より523人減少した。開所日数は261日で一日あたり約2人の減員であるが、その主な原因はたちいずみのへの移行とセンター港南への入所移行であった。

力をいれた取り組みとしては、活動では、マンツーマンですすめるふれあい活動や個別活動、日中活動を選択できるようにしたことが挙げられる。また、入所者の日中活動支援は1日を4枠に分け、土日を除いて1日平均17人に個別活動（散歩、リハビリ、創作等）とグループ活動を提供した。グループ活動は調理活動（話し合い・役割分担・買い物外出・調理・会食）、音楽活動（話し合い・役割分担・練習・発表会）、共同制作（話し合い・イベント用作品準備・発表）といったように、利用者の参加と意思表示の機会をより豊富にした活動に取り組んだ。なお、通所・日中活動等にかかわる地域ボランティアは延べ700人に及んだ。

利用状況（実績） ※障害程度区分平均 5.9 事業日数 261 日（261）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	461	438	459	422	435	432	446	429	430	378	426	474	5,230
H29	406	409	438	398	405	391	392	401	378	345	355	389	4,707
	-55	-29	-21	-24	-30	-41	-54	-28	-52	-33	-71	-85	-523

5 たちいずみの（初年度）

生活介護「和音」（定員15）は、一日あたりの利用者数平均は9.1人で定員の60%からのスタートとなった。重心児放課後等デイサービス「りずむ」（定員5）は、初年度から申込者が26人となり一日あたりの定員枠5名で契約を行うことができた。一日あたりの利用者数平均は4.2人だった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
和音	207	207	229	200	217	189	202	192	196	172	167	185	2,363
りずむ	44	89	97	86	92	82	92	93	86	85	84	87	1,017

6 入所者の外出支援（通院、外部通所は除く）

平成27年度に外出支援コーディネーター（嘱託、運転員兼務）を配置し、入所者の社会参加の指標に外出回数を置き、職員全体で積極的に取り組んだ。その結果3年間で個別外出回数は1.4倍に、日中活動やユニット活動などの小グループによる買物や外食などの小集団外出は2.3倍になった。入所者一人当たりで換算すると、年間6回から年間12回まで増えたことになる。

	個別	小集団	合計
H27	117	157	274
H28	124	322	446
H29	165	367	532

7 計画相談実施状況

サービス利用等計画相談の義務化への対応として、平成27年度から2名の計画相談員(横療相談室と兼務)を配置し対応を進めてきた。平成29年度は対象者57名(入所37名、通所20名)で、計画案作成、評価は前年度とほぼ同数の回数を実施した。

	対象者	計画案	評価
H27	28	28	76
H28	49	33	103
H29	57	30	96

8 日中一時支援事業(3名)

通所者を主な対象に月平均6名程度の利用で推移した。

9 職員体制(3.31現在)

	所長	管理課長	入所課長	通所課長	生活支援員	看護師	相談員	栄養士	事務員	当直員	運転員	洗濯員	小計
常勤	1	0	1	1	51	4	2	1	2		1		64
非常勤					12	1			1	3	6	2	25
	いずみの課長	生活支援員	看護師	児童指導員	保育士	作業療法士	運転員	事務員	小計				合計
常勤	1	4	2	1	1	1			10				常勤 74
非常勤		1	1				4	1	7				非常勤 32

10 その他

リスクマネジメント、サービス向上、虐待防止、給食等について委員会を設置し、事業充実に向けた取り組みを行った。また、施設活動の情報提供を充実させるため、ホームページ委員会を毎月1回開催し、「最近のたち」のコーナーで毎月、写真更新するように努め、家族、関係者への情報発信を行った。

保育室ひかり運営事業

(1) 人員体制

保育士 11名（園長1名・非常勤10名）

調理員 2名（非常勤2名）

(2) 利用状況

平成29年度の利用児童数は月平均15.5人と昨年度より0.3人マイナスであったが、空いた枠は年間を通して一時保育で活用できた。

また、平成30年1月より、「小規模保育事業A型」に類型変更した。これにより、1月から3月までで84万円あまりの増収となっている。

連携施設については、今年度マヤ保育園、左近山幼稚園と連携締結をし、2歳クラス9名全員分の移行先確保ができた。今後は連携園への優先入所も保育室ひかりの魅力の一つとしてアピールしていけるものとする。

利用児童数（定員19人）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
0歳	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	26 (2.1)
1歳	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84 (7)
2歳	5	5	5	5	5	7	7	7	7	8	8	8	77 (6.4)
計	13	13	13	13	13	17	17	17	17	18	18	18	187 (15.5)
一時保育	4	4	4	2	7	6	4	7	6	3	1	3	51 (4.2)

注：一時保育は延べ人数を表記

(年間利用児童数) 定員19人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (月平均)
29年度	13	13	13	13	13	17	17	17	17	18	18	18	187 (15.5)
28年度	13	15	15	15	17	19	19	16	16	16	16	16	190 (15.8)
27年度	12	16	16	16	18	18	19	19	19	18	18	17	206 (17.1)